

令和3年 第1回ヘルシーキャンパス運営委員会 議事録

日 時 2021年7月26日（月） 18時30分から20時20分

開催方法 Zoomによるwebミーティング

出 席 委員長：石見 拓
委 員：太刀川 弘和、安宅 勝弘、山本 祐二、松永 奈央子
豊田 久美子、藤本 昌、島本 大也、小川 さやか
事務局：飯島 健、小野 綾

欠 席 委 員：吉川 弘明、オブザーバー：石川 宜子、前田 真由美

- 議 題 -

1. ヘルシーキャンパス運営委員会の目的、規約等（資料①）

- ✓ ヘルシーキャンパス運営委員会の目的、規約について石見委員長から共有、確認した。山本委員より 規約の第一条の組織名が、キャンパスヘルス運営委員会になっている点が指摘され、「ヘルシーキャンパス運営委員会」へと修正することとした。

2. 委員の紹介（資料②）

- ✓ 自己紹介いただくとともに、本名簿をHPに掲載していることについて出席者に確認した。

3. 全国大学保健管理協会 ヘルシーキャンパス宣言について（資料③）

- ✓ ヘルシーキャンパスの背景、理念や展望と課題について石見委員長から共有、確認した。

4. 各地・各校での取り組み

- ✓ 松永委員：立命館大学（http://www.ritsumei.ac.jp/health/healthy_campus_top/）
小川委員：長崎大学（追加資料1）、豊田委員：京都看護大学、山本委員：滋賀大学、島本委員：京都大学（追加資料2）より、それぞれの大学におけるヘルシーキャンパスの取り組みを紹介・共有いただいた。また、藤本委員からは全国大学生協共済生活協同組合連合会の取り組みについても紹介いただいた（追加資料3）。

- 配布資料のない大学での取り組み紹介

- 京都看護大学：ヘルシーキャンパス京都ネットワークへ参加し、毎年ウォーキングチャレンジへ積極的に協力している。今年は京都市中京区と協力して、区民と一緒に

にウォーキングイベントを実施することまで決定した。他の大学の取り組みを参考にしつつ、ウォーキング以外の取り組みも広げていきたい。

- 滋賀大学：滋賀大学HP「ヘルシーキャンパス滋賀大学の取り組み」を供覧しつつ活動を紹介。生協の協力で、夏に向けた健康メニューを提供することから活動が始まっている。スタッフの健康もふまえた持続性を大事にしながら施策を進めていきたい。今後は講義の途中に背伸びを入れる、などの企画から始めていくことを考えている。

5. 今後の活動方針について

- ✓ 主な取り組み（案）について意見交換を行った。
 - ホームページを通じた情報発信・共有（ウェブ情報委員会と連携）
 - 宣言の掲載及び、宣言をしている大学名の掲載
 - 各地の大学等での先進的な取り組みの共有
 - ◇ 本日紹介いただいた各大学の取り組みスライドの紹介
- 以下、主な議論
- 太刀川委員：ヘルシーキャンパスは一次予防が目的なのか？それによって活動の幅が変わりうる。
 - 石見委員長：個人的には一次予防にこだわらなくても良いと考えている。極端に言うと保健管理センターが提供しているサービスはすべからずヘルシーキャンパスの活動だということもできるだろう。
 - 太刀川委員：過去に皆で元気に集まって心が元気になる、みたいなイベントを実施したところ、メンタルヘルスに課題を抱えて受診している方から反発が置かれたことがある。ヘルスという意味では皆と一緒に健康になれば一番良いと考えているが、ある程度レンジを示す方が良いかもしれない。
 - 石見委員長：同じような課題として、京大のヘルシーキャンパス運動は「逼迫した患者に対するサービスを疎かにしてまでやることではない」というような批判を受けた。ウェルネスの維持は逼迫した課題とは捉えられにくいので、外部からはそう見える場合がある。しかし、予防的な取り組みが重要なのは間違いないので、そうした啓発は続けて、理解を広げていく必要がある。
- ✓ ホームページを通じた情報発信・共有（ウェブ情報委員会と連携）の内容について、参加委員から了承を得た。
 - 研究集会における企画
資料：第59回研究集会ヘルシーキャンパスシンポ案20210726 を用いて石見委員長より紹介。安宅委員が座長を担われる別シンポでコロナ禍における学生のメンタルヘルスに関するものを開かれるため、そこと連携しつつ、重複しない内容でヘルシーキャンパスの取り組みを伝えるプログラムが組まれており、豊田委員、藤本委員、山本委員から演者として参加することへの了承を得た。

以下、主な議論

藤本委員：学生さんの立場でも登壇して話をしてもらう機会があるとよいのでは。

石見委員長：岡本先生と確認して、調整していければ、と思う。

藤本委員：10/1 にCampus Lifeという雑誌が出版される。そして10/6.7が大学保健管理研究集会である。Campus Lifeは、生協あるなし関係なく情報としては全国の四年制大学の学長・総長へ届き、また大学生協のHPにも掲載される。協会のHPともリンクできれば、効果的な広報戦略ができるのでは、と考えている。

安宅委員：「COVID19が大学にもたらした変化」というテーマでスピーカー3名を招く予定。その導入として調査状況を示す、という流れを考えている。ヘルシーキャンパスのシンポジウムでもメンタルとか自殺予防につながる内容を話すとしたら、このシンポが初日なので通底するようなテーマを盛り込んでいくのは有効ではないか。これからの議論でも具体化できれば、と思う。

石見委員長：そこは棲み分けをしながら連携する形で進めていきたい。

- 基幹イベント（ウォーキングチャレンジ）の推進・システム提供（資料④）

島本委員から、過去のウォーキングチャレンジとヘルシーキャンパス京都ネットワークについて紹介。石見委員長より、これまでのノウハウを活かして、シンボリックなイベントとしてウォーキングチャレンジを協会が提供して、全国展開していく方針を提案。

参加大学が10数大学程度までの増加であれば、40万円程で運営はできる、という見積もりを得た。問い合わせ窓口の対応などを事務局と相談もする必要があるが、50～60万程度の協会の予算を使うことができれば、今年度運営は可能。

事務局長より、予算上捻出は可能、とのこと。ただし、事務局は2名しかいないので、新しい事業に対してスタッフの補充が必要となった場合には石見委員長とも相談しつつ、進めていくことになる。

今年度から一気に拡大させようというわけではなく、まず委員の先生方の大学中心で参加いただき、省力化して効率よく広げていく方策を考える年にしていきたい。

委員からの賛同を得て、この方針で進めていくこととなった。

以下、その他の議論

飯島事務局長：ヘルシーキャンパス京都ネットワークに参加している精華大学は、協会に入会していないが声掛けは可能か？

石見委員長：声掛けは良いが、協会の会員しか本イベントに参加できない、という形にはしたくないと考えている。イベント参加を通じて、協会の存在意義を高め、入会に繋げるのが良いのではないか。

- 核となるコンテンツの開発、提供

- 委員の先生方の力をかりつつ、既存のコンテンツを活用して自殺対策に役立つ資料や情報の提供をしていくことを考えている。

太刀川委員：全国大学メンタルヘルス学会の研究班では、学生の家族に向けての自殺予防コンテンツ、教員向けの自殺要望コンテンツなどを順次つくっている。エビデンスがあるというわけではないが、調べてみると多くの大学が自殺予防の取り組みを実施していないということもわかってきている。そうしたものを提供することはできるかもしれない。ただし、研究班の母体は学会なので、研究班の成果を直接こちらに流し込めるかというのは、研究班及び学会の了解が必要であり、調整に時間を要する。

安宅委員：クレジットをしっかりとつける形ができれば、大学保健管理協会からも情報発信してもらい、情報が広がることは良いことなので、研究班の理解は得られると思う。手続きは勿論必要。

藤本委員：大学生協の学生ネットワークを利用すると、エビデンスになるような調査ができるかもしれない。3月にフィジカルヘルスフォーラムもあるので、京大・東大も協力して受験生から新入生を迎えるタイミングでそういうところにも繋げていくイメージもある。ぜひ生協もうまく使っていただきたい。

- ✓ メンタルヘルス学会で作成しているコンテンツを活用し、自殺対策に役立つ資料や情報の提供をしていく方針が承認された

6. その他

- 会議の開催スケジュール：年 3~4 回を予定 次回は9月中の開催を予定。
- 今後、各委員で役割を分担し、各事業を進めていく。石見委員長より、ホームページ、ウォーキングチャレンジ、自作対策コンテンツといった役割分担の案を提示するが、希望があれば寄せていただくこととした。

- 資料 -

- 資料① 委員会規則
- 資料② 委員会名簿
- 資料③ 協会ヘルシーキャンパス宣言
- 資料④ ヘルシーキャンパス京都ネットワークのウォーキングチャレンジ

http://www.ritsumei.ac.jp/health/healthy_campus_top/ 立命館大学から

追加資料 1 長崎大学から

追加資料 2 京都大学から

追加資料 3 全国大学生協共済生活協同組合連合会から